



ボランティアセンターだより

2020年7月 No. 140号

ボランティア グループ紹介

ボランティアグループ「いちばん星」

市地区にある「NPO 法人いちばん星」は精神障がいのある方の家族会の“親亡きあとに子どもたちの居場所があれば”との思いから平成15年に立ち上がりました。“地域の人にも足を運んでもらえるように”と喫茶店としてお店を構え、登録している約40人のメンバーさんが交代でお店に立っています。常連さんも多く、メンバーさんとは街で会うと声を掛け合う関係です。また、作業を通して交流することを目的に、牛乳パックで作る「らくちん座いす」の作製もしています。美菜恋来屋でも販売しており、大変好評だそうです！

「いちばん星」の運営には多くのボランティアさんも関わってくれています。立ち上げ当初に県保健所が開催した講座のプログラムのひとつとして、「いちばん星」の見学会を行ったことをきっかけにボランティアグループが誕生しました。現在7名の登録があり、喫茶や「らくちん座いす」の作製、バザーなどのお手伝いだけでなく、メンバーさんの相談役や話し相手としても大きな役割を果たしてくれています。

「いちばん星」が目指しているのは、“障がいのある人たちが、地域の中で共に生きていくための交流の場づくり”です。「つながる人がいることで安心できる。これからも多くの方に関わっていただきながら活動を進めたい」と今後の思いを聞かせていただきました。

自主作品
らくちん座いす
大 900円
中 700円
小 600円

色の仕分けをしてから、一つ一つ丁寧に座いすを編んでいます



日替わりランチ
(600円)も
美味しいですよ！



地域交流サロン
“いちばん星”
南あわじ市福永572
Tel. 0799-42-5556



「おもいやりポイント制度」

自宅で学ぶ

傾聴

講座のご案内

「聴く・話す」コツを自宅で楽しく学び、おもいやりポイント制度で生かしてみませんか？

受講内容：①傾聴の「いろは」について学ぼう！（15分）

②実際にやってみよう！傾聴の仕方「あれこれ」（15分）

講師：あそびの工房 もくもく屋 田川雅規 氏

受講方法：さんさんネットコミュニティチャンネル放送

※eo 光テレビ 12 チャンネル

対象者：①②の講座を受講し、アンケートを提出された方へ

「おもいやりポイント制度」おもいやりポイントを付与

放送日：7月20日(月)～26日(日) 8時～、13時～、20時～（繰り返し放送）

申込方法：まずは社協へご連絡ください。



脳トレに！



夏になると涼しい場所に行く人の職業ってなーんだ？

答えは中面を
見てね！



助成金のご案内

県民ボランティア活動助成

受付期間：7月1日(水)～8月31日(月)

助成額：上限3万円（エントリー数によって金額が決定）

条 件：・兵庫県内で活動を行っている

・団体の構成人数が5人以上であること

・年間12日以上（活動（事業）を実施

・助成対象経費が6万円以上であること など

詳しくは
ボランティアセンターに
お問合せください



長谷川福祉会助成金

対 象：障がい者を対象とした団体・ボランティアグループなどが行う社会福祉活動

条 件：長谷川福祉会ホームページをご参照ください

助成額：施設の建設、修理、改造に対する助成 上限 100 万円

備品の購入に関する助成 上限 50 万円

活動事業・資材に対する助成 上限 50 万円

締 切：令和2年7月25日（土）

必見

子ども・海
好きの方へ！

ボランティア募集

社協では障がいのある子どもたちの余暇支援として“よかさ〜くる”を実施しています。そこで、一緒に活動して下さるボランティアさんを募集しています♪

日にち：令和2年8月11日（火）

時 間：13時～16時30分頃

場 所：南あわじ市南淡 B&G 海洋センター艇庫

内 容：マリンスポーツでの子どもたちの見守りや運営のお手伝い

興味のある方は
まずはお問合せ
ください♪



暑い日の「マスク」に気を付けて！



気温、湿度の高い中でマスクは要注意です！人と離れている時はマスクを外したり、こまめに水分補給するなどして体調管理に気を付けましょう！

たくさんの布マスクありがとうございました

4月から「縫野得枝さんプロジェクト」として6月末までに、延べ210名のボランティアさんに計3,617枚の布マスクを作製いただきました。いただいた布マスクは、学校や福祉施設、金融機関などを通して地域にお住まいのみなさまにもお渡ししました。お届けしたみなさんからお礼のお手紙や善意銀行へのご寄附、市こども園からは可愛いメッセージもいただきました。

多くの方にご協力いただきありがとうございました。これをきっかけにできたつながりを次につなげていきたいとします。



発行 南あわじ市社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒656-0122 南あわじ市広田広田 1064

TEL：44-3007 FAX：44-3037

MAIL：info@minamiawaji-shakyo.or.jp





2020.7

(イケメン)

其ノ壱

集まれ！行け MEN' s

こんなところにも!?

どうしてここに!?

第3「行け！MEN' s」発見
八木 「馬回清流の里」

男の人が「サロンに来ない！」などと聞かれることもあります。実は男性もいたるところで集まっておしゃべりしているようです。そんな男性の集まる場のご紹介第2弾！「其ノ壱」は2020年2月号をチェックしてくださいね♪



「八木・馬回で男の人たちがなんか面白そうなことをやっている?!」と聞き、馬回集落のイケメンズの水田さんと堤さんにお話を伺いました。

▶馬回集落のイケメンズって何なん?

獣害被害でこまってんねん(。、。)という集落もあるはず。そこで立ち上がったのは馬回集落の男性たち。名付けて「馬回イケメンズ」!! 今年の2月から始動しました。馬回集落を守るため、手に手にチェーンソーを持ち、大学生から中高年までバッファゾーン（緩衝地帯）と呼ばれる里山を帯状にする整備をしています。この活動は兵庫県の助成金を利用し、獣捕獲の檻の設置と並行して行われています。



▶なぜ？そこに大学生が！

実は、馬回集落には5年前から吉備国際大学の学生が、空き家をシェアハウスに利用して住んでいます。また、今年は卒業生が南あわじに就職し、馬回住民になりイケメンズ力を発揮しています。「せっかく淡路にいるんやから、いろんなこと経験せなな」と馬回中高年イケメンズは機械の使い方から物の作り方までいろんなことを若者に伝授しているそうです。



▶山で伐採した木はどうするの?

獣害対策で伐採した木は放置せず、集落で借りている倉庫に運びます。倉庫の中には簡易フォークリフト、薪割り機、チップとノコくずの振るい機、電動ノコギリなどがあり、ちょっとしたミニ製材所気分です(^_^)木の特徴を捉え、役割別に薪、炭用、木の板(後々は散歩中の休憩用の椅子になるかも(^-^)?!)、キノコの原木と色々と分別されます。現在、倉庫の中には切り出した木と乾燥中の薪があります。

▶馬回イケメンズの活動はどんな風に話し合うの?

切り出した木に腰掛け、「桜の木はチップにしてイノシシの燻製にしようか!」「シイタケはこの前菌を植え付けたから、今度はヒラタケにしたらどうや」と、片手に缶コーヒーを持ちながら、思案したり、思いを語ったりします。そうです(^_-)☆ここは馬回集落イケメンズ集いの場です。気負わないけども手を抜かず、「半分遊び、半分仕事」の精神で生活を楽しんでいます。



▶馬回イケメンズのこれからは?

“活動はずっと続けたい。また、長く続くように”と農家12戸のグループからなる「馬回清流の里」に活動を委託しています。「ゆくゆくは、ボランティアで動いている集落の人に少しでも時給が出て、活動の継続ができれば!」「年とってから自分の居場所があったらええやろ」と近い将来も見据えた位置で集落全体の将来を思っているようでした。

楽しいことを次々と作り出していく馬回集落ですが、これからの馬回イケメンズの活動を応援していきたいと思います。

地域の活動も少しずつ

再開

しています♪

新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除され、少しずつですが地域のサロンや集いの場などの活動が再開しています。その一部をご紹介します！！

ひだまりサロン



自粛後初のサロンです。マスクをつけてソーシャルディスタンスを保ちながら、ゴキブリ団子を作りました。

市集いの場



3か月お休みでした。待ちに待った集いの場で、久しぶりにみんなにも会えて楽しかったです！

十ヶ所スマイルクラブ



百歳体操、いきいきふれあいサロンとともに再開しました。ケロッグ社から送られてきた玄米フレークを配布し、食生活にも気を付けます。

ギョギョタウン



自粛中も魚の世話は休めません。頑張っています！自然と男性の集いの場です。近所の方たちも顔を出していますよ。

緑老人クラブ連合会



一人暮らし高齢者の見守り訪問（友愛訪問）時に手作りマスクを持って行ってあげよう！と会長と女性部の方が準備をしました。

中田サロン



自粛中、回覧で宿題を回しました。回すことで安否確認をし、宿題をすることで脳トレします。再開後初のサロンは答合せと作品提出しました！

MINATO ふれあいサロン



今年度より名前が変わりました！いつもは阿波踊り体操やお達者音頭をしています♪今回は色合わせをしましたよ。

小学生のみんな



休校も終わり、学校生活もようやく始まりました。地域の人のご指導の元、田植え体験をしたので思わずパシャリ📷

感染症への不安は、まだまだなくなりませんが、これからは新型コロナウイルスと共存する社会づくりが求められています。その中で、地域活動やボランティア活動の重要性や期待はますます高まっています。

予防に努めながら、地域での「支え合い・助け合い」活動を広げていきましょう♪

夏なぞなぞの答え

秘書（避暑）

